学校だより

みどりの

6月号

学ぶ当事者　支える当事者　緑野小学校

○考え伝え合う子
○心豊かな子
○元気な子
○やりぬく子

令和５年６月１日

誰かが誰かを思いやる

校長　遠藤　昌司

西昇降口前の大きな梅の木が、たくさんの梅の実をつける時期となりました。今年は例年より早く、既に九州から東海地方にかけては気象庁より梅雨入りの発表がありました。関東地方に梅雨前線がやってくるのも間もなくでしょう。しばらくの間は先週までの日差しの強さとは打って変わり、肌寒い日もあるかもしれません。本校でもインフルエンザにかかる児童が見られますが、この時期でも流行することがあるようです。引き続き体調管理にはお気を付けください。

先月、「おはなしの会」の顔合わせがありました。図書館がいっぱいになるほどのボランティアの皆さんが、今年度も活動に参加してくださることになりました。ありがたいことです。当日、ご挨拶の中でも触れましたが、保護者である皆さんがご自身のお子さんだけではなく、いわば地域の方々として子ども達を支えていただく場となるものと考えています。読み聞かせを通して、色々な世界に触れる機会を与えていただければと思います。

５月の終わりに放送朝会がありました。いじめについて子ども達に考えさせることをねらいとして、どんな話をしようかと考えていましたが、まずは昨年の学校だよりでも触れた、校長室前に掲示してある神奈川県の人権意識啓発ポスターについて紹介しました。続いて「ある夜の物語」というお話の朗読をしました。これはショートショートで有名な星新一さん（故人）の『未来いそっぷ』に収められた短編です。サンタクロースを介して、一人でさみしい思いをしている登場人物が、実は誰かに気にかけてもらえていることを知り、一人、また一人と幸せな気持ちになっていくという内容で、星新一作品の中でも自分の好きなお話の一つです。

人は誰しもが大切にされる存在であることの意識が高まることと、誰かが誰かを思いやる気持ちになれることが、少しずつでも緑野小学校の子ども達に広まってくれることを願っています。

校長室前には「いじめをしない　いじめをゆるさない　やめるようにいえる勇気（ゆうき）を！　いじめのない緑野小学校に」という掲示があります。子ども達それぞれが人権についての意識を高めていくことができれば、人を傷つけることにはならないはずです。そのためには、今年度の重点目標の一つ「自分から」を実践していく力が必要となります。また、知らないうちに誰かが自分を気にかけてくれているということは、大きな安心感につながることです。もう一つの重点目標、「相手をよく知り大切に」も実行していってほしいと思います。